

1 学期の取組み・成果と課題

1 年

- ・「くちばし」で、どのくちばしが面白かったかについて交流した。(口頭)
- ・「おむすびころりん」で、「しろいおこめがざあざら」「きんのこぼんがざっくざく」を何度も音読し、言葉から様子を想像させ、はじめて吹き出しを書いた。
- ・友達の書いた吹き出しを使って、自分が思ったことを発表した。(はじめて、パーとグーの挙手をして発表することを指導した。)

成果 (資料や児童のノート)

- ・ロイロノートに保管しています。

課題

- ・ひらがなの定着が未熟なため、自分が思ったことを文字にして書くのに時間がかかる。
- ・書き方がわからなくて、戸惑う児童も多くいた。
- ・グーとパーの違いの意味が分かっていない。
- ・挙手をしたので、当てても「わすれました。」と言ってしまう。
- ・発表の声が小さく、全体に聞こえない。

2年

- ・「スイミー」の学習では、スイミーの気持ちについて考える中で、友だちの意見と「同じ・似ている・付け足して」というのを意識しながら話し合いを進めた。(教師が)
- ・教師が聞き返したりしながら、話し合いの形をとっていった。
- ・発表の仕方ですぐに言えた子には教師が率先してほめていった。
- ・ペアで話すときには、必ず反応する・一言いうなどを約束して進めることを心掛けた。
- ・普段から、相手に聞こえる声、はっきりした言葉で話すことを練習している。
(苦手な子もいるので。)

成果（資料や児童のノート）

ふりかえりアンケート結果

		とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
1	話し合いの授業は楽しい	41	16	4	4	65
2	伝え合うことで、新しい気づきがある。	34	19	7	5	65
3	ふり返りを書くことは、楽しい。	39	11	3	12	65
4	ふり返り書くことで、自分の考えが広がる。	39	16	4	6	65

課題

- ・書くことはできているが、それが発表につながらない。
(発表するメンバーが決まってきたり。)

3年

・話し合い活動としては、物語文で、①個人で意見を書く。→②全体で話し合う。→③ふりかえりを書く。

が基本になり、できるときには②ペアで交流をする。

成果（資料や児童のノート）

ふりかえりアンケート結果

		とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
1	話し合いの授業は楽しい	35	27	4	3	69
2	伝え合うことで、新しい気づきがある。	32	27	9	1	69
3	ふり返りを書くことは、楽しい。	22	23	18	6	69
4	ふり返り書くことで、自分の考えが広がる。	29	23	13	4	69

課題

●話し合い活動が、しっかりできていない。意見を伝え合うだけにとどまり、意見に対する質問が少ないので、深め合うところまで到達していない。

●発言する児童が偏ってしまう。

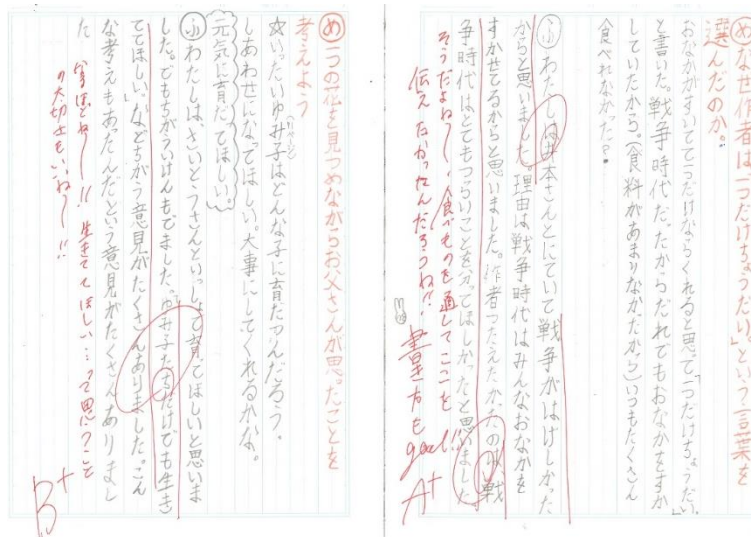
4年

- 国語の物語文・説明文において、班での話し合い活動・全体での話し合い活動に取り組んだ。
流れとしては①個人の考えをノートに書く。②班で意見交流 ③主題に迫るような話し合い活動④ノートにふりかえりを書く。の順番で進めてきた。

成果（資料や児童のノート）

●アンケート結果

		とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
1	話し合いの授業は楽しい	35	32	2	2	71
2	伝え合うことで、新しい気づきがある。	34	31	4	2	71
3	ふり返りを書くことは、楽しい。	31	22	12	6	71
4	ふり返り書くことで、自分の考えが広がる。	30	27	8	6	71



課題

- 時間配分・時間設定の調整
- 教員の問いかけ

課題設定を行うが、どこまでが教員が声をかけて、質疑応答していくか。話し合いが停滞してしまったときにどのように声をかけて、再開させていくかが難しい。

5年

○司会を中心としたグループでの話し合い

- ・書いたものを読まずに、簡潔に話させるように意識させた

○グループで出た質問を全体につなげる

○登場人物の関係性をとらえるために双方（登場人物の互いの）の気持ちを話し合わせた。

○聞き手：リアクションの仕方、聞き方を意識させた。

話して：聞き手の反応を見て、話す。

- ・児童の反応を見て教師から意見を聞く。（挙手していない児童にも）

成果（資料や児童のノート）

ふりかえりアンケート結果

		とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
1	話し合いの授業は楽しい	39	31	11	2	83
2	伝え合うことで、新しい気づきがある。	42	35	6	0	83
3	ふり返りを書くことは、楽しい。	36	30	8	9	83
4	ふり返り書くことで、自分の考えが広がる。	39	27	14	1	83

成果

○話し合いのテンポが良くなった。

- ・ノートを読まずに自分の考えを伝えるので。

○質問から児童の考えを深めることでできた。

○児童が考えやすい視覚的な支援となった。（ワークシート・板書）

- ・次の単元でも同じやり方で行ったので、より子どもたちは考えやすかった。

○伝え合うことで新たな気づきや学びがあるとたくさんの児童が感じている。

課題

●叙述から離れる児童がいた。

- ・振り返りの効果を子どもたちが実感していないため、楽しくないと感じている。

●グループでは意見が出るが、全体だと言えない児童も少なくない

●意見を深める時間の確保が必要。（意見が広がってはいるが、深まりが弱い。）

6年

「聞いて考えを深める」では、【宿題はなしよりありに賛成か反対か】で論点に気をつけ自分の考えを深めるための討論を行った。その際、①話し手が、目的や話題に沿って意見を述べ、その理由や事例として適切なものを挙げているかどうかを確認する。②自分の考えと比べる、共感したり納得したりできる点を取り入れるなどして、考えを深める。の2つに注意し進めていった。また、相手の話を聞き取るために「それは」「また」といった文末表現に着目させ意見や理由の聞き分けを行った。

「やまなし」では、作者の生き方や考え方をもとにして【「やまなし」を題名にしたのはなぜか】で話し合い活動を行った。その際、①作者の表現によって、どのような作品が生まれているかを考える。②作者の生き方や、他の作品の書かれ方と関連させて、考えを深める。の2つの論点を意識し作者の思いと重ねて自分の考えの形成を行った。また、構成や表現の仕方、使われている言葉などに着目し、作品の世界を想像して読み深めていった。

ふりかえりアンケート結果

		とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
1	話し合いの授業は楽しい	36	40	5	2	83
2	伝え合うことで、新しい気づきがある。	47	31	4	1	83
3	ふり返りを書くことは、楽しい。	17	43	11	12	83
4	ふり返り書くことで、自分の考えが広がる。	36	34	9	4	83

成果

- ・比較的前向きに話し合い活動に取り組んでいる。

課題

- ・振り返りの効果を子どもたちが実感していないため、楽しくないと感じている。

○ふり返りについて

1年

- ・1学期はひらがなの習得、簡単な文章を書くという学習を行った。

2年

- ・書いたふりかえりを、みんなの前で発表する。
- ・書くことに対して、抵抗を少なくするために、一年生から引き続き毎日日記を書いている。
- ・書き方のお手本を示して、書きにくい子の手助けになるようにした。

成果

- ・少しずつ書く量は増えてきている。(日記などから見て)それがふりかえりにも活かされるといいなと思っています。
- ・良いお手本を聞いて、真似をする子どもでできた。

検証 (A・B・Cの評価から…)

- ・ある程度の量を書けることも大切かなと思いました。
- ・ふりかえりだけでなく、吹き出しや自分の考えを書くところにも自分なりの考えが入っているので、両方をみていくことも必要か……。

課題

- ・書ける子と書けない子の差がある。

3年

●国語と社会で、できるだけふりかえりをしている。ふりかえりを書くのが難しい児童には、型を示し、書くことができるように支援している。型は、教室に掲示しているハンドサインと同じ形式にしている。

4年

成果

●少しずつではあるが、ふりかえりを書く際に感想にとどまらず、仲間の意見と同じところや違うところが書けるようになっている。

検証 (A・B・Cの評価から…)

●A・B・Cの評価はまだ行っていない。

課題

- ふりかえりが、感想や共感にとどまっている児童が多い。仲間の意見と比較ができない。
- 教師の課題としては、ふりかえりの指導の徹底。

取り組みについて

- ふりかえりの指導を徹底して行う。

自分の感想だけではなく、「他者の意見で共感したところ」「他者の意見への質問・疑問」「他者の意見を踏まえて自分の意見がどう変化したか」を意識するよう指導を行う。

「作者の考え」を念頭に踏まえたふりかえりの指導を行う。

成果

- 国語のふりかえりを軸に置くことで他教科への影響

他教科で振り返りを書く際に、他者の考えや発表を含めて書くことができるようになった。例えば算数科の思考的な問題の際、他の児童の解き方に注目して、その解き方について自分なりの見解を含めたふりかえりを書くことができるようになった。

検証 (A・B・Cの評価から…)

②

①一つの花という題名について考えよう。
三場面がある場合とない場合のちがい。
三場面がある場合わたしは、戦争後はどうなったか分かると思いましたが。
ない場合はお父さんかお母さんかお爺さんかお婆さんがどうなったかやゆかりはどうなったか分かるからないと思いましたが。
②お父さんがプラットホームでゆかりにあげた一つの花はお父さんの幸せになってほしいなどの気持ちかこめられて、その一輪の花かゆかりの成長などを見守ってやがて幸せになって大きく育ったから。

「一輪の花が成長を見守った」の部分が多いです。お父さんの気持ちも考えられていますね。

①

①は人のお母さんのいけいけいかなと思いましたが。なぜならはんのせんなとちがってお母さんをつけていたからです。そして教科書の文につけ直しをしました。つけ直しの文を早くこの言葉をやめさせないと思書して、このように気持ちもある人だと思いいました。

瀬尾さんの意見を聞いて、どう思うように考えが深まったかを書いたらいいですね。

上記の児童は同じ物語文（一つの花）の話し合い活動を通してのふりかえりである。①はその物語の初めての話し合い活動を通してのふりかえりで、他者の意見に賛同しているところまで

は良いが、内容に関してではなく、「書き方」や「発表の方法」について書いているので、評価は B。一方②は他者の意見を参考にしながら、自分の考えを書き、新しい考えを書くことができていたので、高評価の S（ノートは S だが、A 評価。児童のやる気向上のため、S と記入している。）

課題

●評価の設定

課題設定を行い授業展開をしていく中で、ふりかえりの書き方がクラスによって変わってくるので、評価の統一性がない。担任判断に重きが向いてしまう。

●書き方（書く流れ）を覚えた児童はすらすら書き、1 ページほど書けていくが、苦手な児童はまだまだ時間がかかるし、何を書いていいかわからなくなる。

●登場人物の思いや行動面からの心情を課題設定にしたときは、しっかりと振り返りを書くことができるが、物語の終盤、作者の思いや考えを課題設定にした場面では、自分の考えを軸にふりかえりを書いていくので、そこに苦手意識を持つ児童も見られた。

●高評価への児童の対応

5年

○ふり返りの型をおさえる・

A、自分の最初の意見

B、他者の意見

C、めあてにもう一度、戻って！

・めあてを意識させる。

○事前に評価の基準を伝える。

○ふり返りの交流をする。（ロイロ）

成果

○「めあて⇒ふり返りを書く」の授業が定着してきた。

○自分の考えを整理することにつながっている。

○語彙・表現が豊かになってきた。

検証（A・B・C の評価から…）

☆めあてがふり返りに反映される。

・児童にとって考えやすいめあてだと、ふり返りも書きやすい。

☆話し合い活動を行う班編成が大事。

・グループでより深い話し合いができるかで全体の話し合いの質が決まる。

☆ $C \Rightarrow B$ より $B \Rightarrow A$ が難しい。

- ・本児の最も大事なキーワードをおさえることが難しい。B

課題

- キーワードを拾えない児童への手立て
- めあてに沿って書けない児童への手立て
- ふりかえりを書くのに時間がかかる。

6年

- ・型を定着させる。
- ・内容だけでなく、書き方の評価もとる。
- ・事前に評価の基準を伝える。

成果

- ・振り返りを書くことの抵抗が少ない。
- ・苦手な子でもなんとか他者との意見に繋げようとしている。

検証（A・B・Cの評価から…）

- ・話し合い活動の事前に考えを把握しておき、想定しておく。
- ・主題にせまる主発問やキーワードとなる言葉の選定を行う。

課題

- ・事前に学年で評価基準を共有できていなかった。
- ・書く力によって評価が決められている。
- ・考える力があってもそれを文字にできないと評価がもらえない

2学期に向けて（付けたい力・伸ばす力）

1年

- ・全体に聞こえる声で発表できるようにする。
- ・自分が思ったことを進んで発表する力、ペアで話せる力をつけたい。
- ・「わすれました。」をなくす。
- ・文字に書く抵抗を小さくする。
- ・グーとパーの挙手の意味を理解させる。

2年

- ・ふりかえりでは、自分の思いを書けるようにしたい。
- ・書けている子に、発表できるように仕掛ける。
(同じ意見の子は？と問いかける。相互指名などを行う。)
- ・話し合いのつながりができるようにしていきたい。

3年

- 話し合い活動は、ペアでの話し合いからグループでの話し合いができるようになる。
- 仲間の意見を聞いて、自分の意見を深められるようにする。
- 型がなくても、ふりかえりが書けるようになる。

4年

●話し合い活動の充実化

「意見を伝えて終わり」や「質問の一方通行」などが見られる場面もあったので、1つの意見に対して、疑問を常に持ち、質問したことへの答えから話し合いを始めて、深めるような場面の設定を行いたい。

●課題設定を児童の疑問から

「初発の感想から」や「教師の考え」から課題設定を行うのではなく、話し合いの授業の中やふりかえりなど児童発信で話し合い活動の課題設定を行うことができれば最良である。

●子どもたちが主体となって進める

教師は聞き手に回り、記録や時間配分を行うだけで後は子どもが話し始めていくことができることが理想である。

5年

○話し手・聞き手を育てる。

- ・リアクションを双方、大事にする。

○他教科のふり返りにもつなげる。

○質問の質を上げる。

- ・読み取りの力を高める⇒語彙の拡充・音読
- ・言葉に着目させる。

○教師が主題にせまる児童の言葉をひろう。

- ・コネクトマップの活用

6年

- ・主題にせまる質問をする。
- ・友だちの意見に共感したり疑問をもったりする。
- ・論点を捉える力を養う。